

that節そのものは中2で済んでいます。中3で増えるのは、that の前に「だれに」がもう1つ入ることだけ—なのに、そこで文が崩れます。×said me、×told to me、そして「で、それだれから聞いたの？」が英語で出てこない。この授業案は、出どころを言わない話と言う話を並べて、tell＋人＋that節が何を運ぶ形なのかを先に見せます。板書は2行です。

- この教材で解決できる悩み
- ×said me that ／ ×told to me that が、何度直しても戻ってくる
 - that節は中2でやったはずなのに、人が1つ入ったとたん語順が崩れる
 - S＋V＋O＋O（that節）を中3の文法に挙げているのは6社中4社で、そのどれもがSVOC・受け身・間接疑問と同じ課に同居している。この形だけに1時間を取りにくい

教材の概要

項目	内容
対象	中学3年（BLUE SKY 3 Unit 3。NEW HORIZON 3 Unit 1・SUNSHINE 3・Here We Go! 3 Unit 1にも同じ形が出ます）
文法項目	接続詞that（S＋V＋O＋O。tell ＋ 人 ＋ that節）
形式	授業案A4（印刷版PDF・板書例つき）
所要時間	50分×1コマ
準備物	なし（先生が3つの話を用意しておく）

授業の流れ（50分）

導入：出どころのない3つの話（12分）

板書はまだしません。英語で3つ、続けて言います。

Our school will get a new water server.
The vending machine by the gym is broken.
It will be sunny on Sports Day.

「この3つ、どれが本当だと思う？」—日本語で聞くと教室が止まります。判断する材料がないからです。「じゃあ、何が足りない？」と返すと、**出どころ**ということばが生徒から出ます。

そこで、同じ3つを言い直します。

The principal told me that our school will get a new water server.
A first-year student told me that the vending machine is broken.
My friend told me that it will be sunny on Sports Day.

今度は手が挙がります。1つ目がいちばん確か、3つ目はあやしい。内容は1文字も変えていないのに判断できるようになりました。増えたのは頭の数語だけです。

気づき：だれに、なにを（10分）

板書は2行です。

The principal told me that our school will get a new water server.

told + me（だれに）+ that ～（なにを）

押さえるのは3つ。①tell は「だれに」と「なにを」を続けて置ける動詞で、**to はいりません**。②say は「だれに」を直接置けない—×said me は、said to me か told me に直します。③that のうしろには、ふつうの文がまるごと1つ入る。that は省略してもかまいません。

展開：たしかな話、あやしい話（20分）

各自ノートに1文だけ、最近だれかから聞いた本当のことを書きます。出どころは my mother / my brother / my friend / my teacher / the news から選ばせると、書き出して止まりません。ルールは1つだけ—**教室の中の人の名前は使わない**。本人が目の前にいる話は検証の場になってしまい、活動が別のものに変わります。

書けたら4人班で1人ずつ読み上げます。聞いた3人は、たしかなら指3本、ふつうなら2本、あやしいなら1本を同時に出す。割れたときだけ、なぜそう思ったかを日本語で一言。理由はほぼ毎回、that の前の人になります。

4巡したら、班でいちばんたしかな1文を選んで黒板に書きに来ます。書くのは生徒です。

まとめ：あとで確かめられるのは、どれ？（8分）

並んだ文を見て、最後に1つだけ問います。「この中で、あとで確かめられるのはどれ？」—確かめられるのは、出どころに会いに行ける話です。自分の1文を清書して提出。見るのは2点、tell のうしろに to が入っていないことと、that のうしろがふつうの文であることだけ。

時制の一致には踏み込まないでください。told me that it **will** be sunny のまま書かせてかまいません。中学の教科書はこの段階で「聞いたときのことばをそのまま入れる」扱いをしています。ここで would に直し始めると、この時間の主役（だれに+なにを）が消えます。同じUnit 3に入っている間接疑問は次の時間へ。1日に箱は2つ入りません。

定着・入試への接続

BLUE SKY 3 のUnit 3は、この形と間接疑問が同じ課に入っています。次の時間に進むなら間接疑問導入『クイズショー Do you know what this is?』へ—どちらも「動詞のうしろに文がまるごと1つ」という同じ話なので、2日続けると箱の中身の形が固まります。書く練習は間接疑問の定着ドリル 中3版、that節の全体像は接続詞の教え方ガイドにまとめてあります。

